

止水性の高い圧着支管で取付管推進施工が可能な グッドモール工法



1. はじめに「取付管推進技術の最先端 —グッドモール工法」

グッドモール工法は平成8年に施工開始以来、施工数量は約3,000箇所の実績となり、全国各所にて採用されている。

グッドモール工法の概要と、最近、特に注目されている、塩ビ本管への本格的な取付管推進接続工法として専用に開発された圧着支管及びその接続装置（ジャストフィットシステム）を中心に紹介する。



写真-1 グッドモール工法専用機ルーキー 14-18型

2. グッドモール工法の概要 「安全・確実・小型・費用縮減」

①小型推進機械は小型軽量化を実現。

・普及機種（ルーキー 14-08）：

機械本体重量-700 kg（720×950mm）

②立坑内据付作業時間の短縮化を実現。

・レベルジャッキ・前後固定ジャッキを使用する事で溶接作業を少なくした。

・角度調整ポイントを装備して角度設定・調整を確実・容易した。

③油圧ユニット・グラウト機材類を小型化して使用し、発動発電機容量（10KVA）を小さくし、全ての機材を1台のクレーン付トラックに積載可能とした。

④推進角度は水平～斜角～垂直（0～90°）まで任意な設定を実現した。

⑤発進方法は地上発進・立坑発進に対応可能とした。

・地上発進・・・路上発進・架台発進（H鋼250）

・立坑発進・・・○□1800・1500・1200・開削溝

（□900×1500）

⑥推進方法は鋼管圧入を採用して回転等による偏芯穴曲がりを少なくした。

推進は鋼管圧入前にウォータージェット探針削孔及びバキューム削掘排土により目視確認し、地下埋設物が無いことを確認して鋼管を圧入するので、埋設物に損傷を与えない。

⑦推進用鋼管は標準装備でφ200SGP～φ350SGPを使用する。

（別途装備でφ50SGP～φ600SGPまで対応可能）

⑧推進用鋼管長は標準仕様でL=1.0・0.5・0.25（m）を使用し立坑サイズにより選定する。

⑨滞水土質にはカバーグラウトを使用して、取付接続部分での作業をドライワークの中で確実な取付を可能とした。

立坑発進の場合は、必要に応じて坑口注入及び坑口止水器（発進・到達）を使用する。